

<p>天久鷹央の推理カルテ</p>  <p>知念 実希人</p> <p>新潮社</p>	<p>世界でいちばん透きとおった物語</p>  <p>杉井 光</p> <p>新潮社</p>	<p>正しい愛と理想の息子</p>  <p>寺地はるな</p> <p>光文社</p>	<p>生まれてきてごめんなさい</p>  <p>村崎 羯諦</p> <p>ポプラ社</p>
--	---	--	--

天医会総合病院に設立された統括診断部には、各科で「診断困難」と判断された患者が集められる。摩訶不思議な“事件”には思いもよらぬ“病”が隠されていた...? 頭脳明晰、博覧強記の天才天医・天久鷹央(あめくたかお)が解き明かす!

ミステリ作家の宮内彰吾が死去した。宮内の婚外子、それが僕だ。「親父が死ぬ間際に小説を書いていたらいい。何か知らないか」宮内の長男からの連絡をきっかけに始まった遺稿探し。編集者の霧子さんの助言をもとに調べるのだが――

長谷真・通称ハセと相棒の沖遠太郎は、偽宝石を女に売りつけて二百万円作ったが、騙したはずの女に奪い返され無一文に。借金返済期日目前、絶体絶命のハセは、今度は老人を騙すことを思いつすが、話題作連発の著者による感動作!

1話5分程度の短編集です。「食」に関する内容だが、ちょっと辛く後味の悪い話もあります。ふらっと立ち寄った定食屋にあった『生まれてきてごめんなさい定食』。どんな定食なんですかと店員に尋ねたら…? …?


<p>麦本三歩の好きなもの 第二集</p>  <p>住野 よる</p> <p>幻冬舎</p>	<p>さよならごはんと今夜も君と</p>  <p>汐見 夏衛</p> <p>幻冬舎</p>	<p>夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く</p>  <p>汐見 夏衛</p> <p>スターツ出版</p>	<p>空芯手帳</p>  <p>八木 詠美</p> <p>筑摩書房</p>
---	--	--	--

新しい年になって、図書館勤めの麦本三歩にも色んな出会いが訪れた。マイペースな彼女の、あいかわらずにどちよっただけ新しい日々。気軽に読めてほんわか気分になれるシリーズ第二集。

学生はワンコインで食べられる夜食専門店。悲しみや寂しさを少しずつ消化できるように、店主の朝日さんは愛情を込めた一皿をつくる。孤独な心に力が満ちて、止まっていた時間が動き出す。世界一優しいお夜食で再生していく感動作。

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』のAnother stories。茜と青磁に関係する人物たちが葛藤する物語や、それぞれから見た青磁、茜のふたりを垣間見る物語。数年後、二人は変わらず互いを想っている..?

「だから私は嘘を持つことにしたの」一日々押し付けられる雑務にキレてつい「妊娠してます」と口走った柴田が送る奇妙な妊婦ライフ。現在、世界14カ国語で翻訳進行中の鮮烈デビュー作が待望の文庫化!

<p>木挽町のあだ討ち</p>  <p>永井 紗耶子</p> <p>新潮社</p>	<p>極楽征夷大將軍</p>  <p>垣根 涼介</p> <p>文藝春秋</p>	<p>息</p>  <p>小池水音</p> <p>新潮社</p>	<p>脱スマホ脳</p>  <p>アンデシユ・ハンセン</p> <p>新潮社</p>
--	---	--	---

美しい菊之助による仇討ちがみごとに成し遂げられた。父親を殺めた下男を斬り、その血まみれの首を高くかかげた快挙は多くの人々から賞賛された。二年の後、菊之助の縁者という侍が仇討ちの顛末を知ると、芝居小屋を訪れるが――。

混迷する時代に、尊氏のような意志を欠いた人間が、何度も失脚の窮地に立たされながらも権力の頂点へと登り詰められたのはなぜか? 幕府の祖でありながら、謎に包まれた初代將軍・足利尊氏の秘密を解き明かす歴史群像劇。

喘息の一息一息の、生と死のあわいのような苦しさ。その時間をともに生きた幼い日の姉と弟。弟が若くして死を選んだあと、姉は、父と母は、どう生きたか。喪失を抱えた家族の再生を、息を繋ぐように描きだす。

集中力が続かない。時間の使い方がヘタ。いつも寝不足。原因は、もしかしたらスマホにあるのかも。スマホを使っているとき、脳には一体何が起きている? 知っておけば絶対安心、スマホとかしこく付き合うための本。

<p>ハンチバック</p>  <p>市川 沙央</p> <p>文藝春秋</p>	<p>気象学入門</p>  <p>古川 武彦</p> <p>講談社</p>	<p>税金で買った本 (1)</p>  <p>ずいの、系山 岡</p> <p>講談社</p>	<p>人気シリーズ続刊も! ・やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。結 (1),(2) (渡 航/小学館) ・新! 店長がバカすぎて (早見 和真/角川春樹事務所)</p>
--	--	--	---

「本を読むたび背骨は曲がり肺を潰し喉に孔を穿ち歩いては頭をぶつけ、私の身体は生きるために壊れてきた。」井沢釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲している。自室から釈華は、あらゆる言葉を送ります。

数十トンもある雲が落ちてこないのはなぜ? 気象にまつわる素朴な疑問から、気象と天気複雑なしくみまで、その原理を詳しく丁寧に解説した入門書。気象用語の多さを網羅し、気象予報士を目指すスタートにも最適!

小学生ぶりに図書館を訪れたヤンキー石平くん。10年前に借りた本を失くしていたことをきっかけにアルバイトすることに! ルールに厳しくも図書を愛してやまない仲間と贈る、読むと図書館に行きたくなる図書館お仕事漫画、誕生です!